

事例

バリアフリーガイドマップ製作活動

有誠福祉会（徳島県） 〒779-3232 徳島県名西郡石井町石井字城の内563 TEL 088-674-7200

活動の概要

ひとりでも安心して外に出て買い物もできるように、また、「自分たちの町は、障害者も高齢者も安心して買い物や生活ができる所なのか？」という問いかけなどを含め、店や公共機関などの情報を掲載した1つの「冊子」を作ってみようと思い、動きはじめました。障害者や高齢者だけでなく、町外や県外の方々が訪れたりしたときにも役立つ情報誌であるということも念頭におき、生活に近い商店や公共機関について調べます。

法人の概要

昭和54年6月社会福祉法人有誠福祉会が認可され、石井町を一望の下に眺められる風光明媚な高台に、昭和55年4月身体障害者療護施設「有誠園」を開所し、現在100名の重度身体障害者が生き甲斐と潤いのある生活を送っています。

有誠園は開園当初より、地域の拠点施設として地域に拓かれた施設作りを目標として、施設を持つ人的、物的資源を開放して、地域における多様なニーズに対応し「誰でも、いつでも、どこでも」必要とするサービスが利用出来るよう、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム他在宅福祉サービスにも積極的に取り組み、高齢者も障害者も子供達も皆が地域でその人らしく自立した生活が送れるよう支援する事を理念としています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…1,117,623千円
- 主な経営施設

身体障害者療護施設	1980年設立	定員100名
特別養護老人ホーム		
	1993年設立	定員50名
ケアハウス		
	2001年設立	定員30名

実施施設の概要

- 施設名…有誠園
- 施設種別…身体障害者療護施設
定員100名

施設の運営方針

利用者の人格を尊重し、一人ひとりのその人らしい生活を支援し、安全で、安心、快適なサービス提供に努め、社会生活に適応できるようエンパワメントを高め、社会参加を支援し、福祉文化の醸成、共に生きる社会作りに努める。

活動の内容

- 活動対象者…障害者（身体・知的）、中高生、一般
- 活動の頻度…
- 年間延利用者数…352名
- 活動開始年…平成13年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

事務局を設定し、この活動に関わる内容・方向を決めるために全機関・団体が話し合う「実務者会」を要所で行い、調査に係る全ての事項や、各機関・団体の役割分担決定を行いました。

現場レベルでは実施に向けて、事前学習や調査人数・調査店舗数（地区）の確認など、打合せを頻繁に行い、事務局が取りまとめを行いました。また、活動をするにあたり、障害者と地域の方々との共同調査という方法を考えていたので、中学・高校には、障害者理解や、車椅子操作の講義など「事前学習」を学校に出向いて行いました。本番前に施設利用者と地域の方が顔合わせし、お互いの緊張や不安などが少しでも解消できた点においては、事前学習は非常に重要なことでした。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

活動に向けては、地域の社協と連携し、実施に向けて動いた。ただ、活動エリアを2町としたために範囲が広がり、①調査員の確保、②調査対象店舗等の確保、が難しかった。①については、社協と連携をとり、他市町村社協やボランティアセンターなどに呼びかけ、人材を確保しました。②については、こちらが積極的に地域の店舗等に趣旨の説明と調査協力依頼を、足を運んで行い、なんとかクリアできました。一番の苦労は、調査表の編集であり、職員2名が編集・校正を行いました。印刷の知識などもなかったために、自由気ままに編集したら、印刷上の問題とぶつかるなどし、かなりの時間と労力を要し、調査終了から発刊までに時間がかかり過ぎてしまいました。

■利用者の声、地域の反応

バリアフリーガイドマップを作るために実際に車椅子を押しながらいろんな所をまわりました。友達が押したり、自分で押してみても分かったのは、私達が普段何気なく通っている道や施設も車椅子の人にとってはすごく大変なんだということでした。特に階段は、何人かの人に手

伝ってもらわないと無理だし、私はもっとバリアフリーであって欲しいと思いました。街なんかに行った時、車椅子の人がいたら道をあけたり、自分に出来ることがあれば手伝いたいと思いました。活動で思ったことは、今まで車椅子の人を見ると「可哀そう」と思っていた気持ちを直そうと思ったことでした。でも、車椅子の人だって私たちと同じだから、そんなことを思うのは間違っていたと反省しました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

地域の社会資源の再発掘や、この地を訪れた方々への観光的PRや情報誌としての機能を有するとともに、地域で生活する障害者の方々にとって有益な情報誌となったと思います。地域住民には調査活動を通じて、障害者に対する理解や、協力をとというような啓発活動にも繋がり、活動を通じて関わった学校関係などには、毎年福祉講座（車椅子操作や、障害者理解の話）を実施したり、行事への招待を受けたりといった関係ができたように思います。